

テーマ別名刺交換会 記録シート

テーマ	重度障害児・者の生活支援～入浴支援、家族支援を考える				
リーダー	山口（さくらほうす）				
進行補助	荷宮（県社協）	記録	山本（県社協）	参加者数	15名
<p>1. 課題提起されたこと、グループでの意見交換の視点</p> <p>① これまでは縁の財源があった。今後、<u>財源</u>がない中で、東近江市・日野町で実際に事業化されたこと（成果）も含めてどのように取り組みを広げていくか。訪問入浴は自宅外では利用できないという制度の壁あり。これからも事業を継続していかないといけない。</p> <p>② 医療的ケアを必要とする人以外にも入浴に関してのニーズは高い。<u>医療的ケアを必要としない人へも</u>取り組みを広げていく必要がある。</p> <p>② <u>家族送迎が負担</u>になり、広がりきらなかった。（モデル事業 B: 自宅近隣の高齢者施設で入浴）</p> <p>③ <u>強度行動障害</u>の方の生活支援・家族支援。養護学校や近江学園を卒業後に行くところがない。（県外施設に入所することが多い実情）</p>					
<p>2. 参加者の気づき、課題と感じていること</p> <p>（1）入浴支援の現状・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器をつけて在宅におられる方。成人になってきて自宅のお風呂に入ることが難しくなってきた、なんとか支援していけたらと思うが…。 ・日常で一番困るのは入浴。 ・縁の入浴事業に施設の登録はしているが、実際の利用契約はない。施設を開放して家族で入浴できるような取り組みがすすめば。 ・担当している利用者の中で、養護学校に通っていて将来卒業して福祉サービスを利用する人が増えてくるだろう。日常生活の中で“入浴”は大きな課題。 ・職員、PT、ST、有資格者等の職員体制の課題もある中で、医療的ケアを必要とする障害児の療育、通所バスでの送迎等、どのようにしていくか。 ・放課後等デイでは2、3時間の時間になるが、その中で入浴支援を行っている。入浴は時間もかかるため、療育に十分に時間がかけられない中での事業展開。機械浴があるため、いろんな人たちに来てもらいながら施設開放をしていければと考えている。 ・重度障害児の障害は今後軽くなることはない、支援は継続していくことが必要だという認識を。 ・入浴支援事業で家族の送迎が必要になると、入浴も含めて2時間近く家族の時間が拘束される。 ・（県）昔だったら助からなかった命が助かるようになってきて、医療的ケアの必要な子どもはこれからも増えてくる。停電があった時、医療的ケアの必要な在宅児は非常に困る。 ・家族送迎の負担を考えると、より自宅に近いところで入浴可能にしていきたい。 ・小さなアパートだと、自宅で訪問入浴が入れない。近隣の施設に出向いてもOKというように柔軟に対応できる仕組みにしないと広がっていかない。 ・地域のために使う財源はいくらでも出せる。そんな法人になっていきたい。 ・現在、事業化（制度化）ができていく市町の事例を他の市町に広げていく。 					

(2) 強度行動障害の方の受け入れ態勢の現状と課題

- ・人材をどう確保していくか（職員育成、職員の負担軽減）
- ・障害の方への対応ができるヘルパーがいない。現場として、かかわりながらのスキルアップが必要。若手職員がいない。在宅介護スキルをもった訪問事業所を作ることが必要。例えば高齢者の訪問介護事業所が障害者とかかわり、ふれあう機会をつくる等。（交換現場実習のような）
- ・施設の設備が対応できない。夜間の職員体制が難しく受けられないこともある。
- ・ヘルパーのほとんどが50、60歳代。事業所としてではなく、社協としては、ほかのサービス提供事業者とつながっていく機会をつくっていく役割があると考えている。
- ・短期入所であっても、行動障害の方を受け入れることは容易ではない。既存の施設では難しい面もある。
- ・行動障害の子ども達の支援は学校の中でも大変。自宅ですっと見ているお母さんはさらに大変。何か新しい別のものが必要になるのではないか。
- ・学校に在籍している間の放課後デイは増えてきている。しかし、強度行動障害の方はなかなか受け入れてもらえない。（ひとつの空間で過ごすことが難しい）
→一番大変な方がどこにいけばよいのだろうという状況。
- ・行動障害の方は作業所でも断られる。土日にずっと家にいるのも家族が疲弊するのでどこかに行きたいと思っても行くところがない。
- ・行動障害の方が短期入所される際の加算がある。（湖東圏域）
→制度的にはあるが、「人」がいない。受け入れる余力がない施設がほとんど。
- ・今ある資源をどう組み合わせればすすむのか？
- ・地域での生活を継続するための評価を受けるなど、支援が必要。どういう環境をつくっていくかは長い目で考えていかなければならない。

(3) その他

- ・施設が福祉避難所として指定されているが、非常電源等、設備面での課題はある。

3. 現場の課題に対応して、だれと、何を創造実践していきたいか（箇条書き）

- ・ 今後、推進委員会のサブ部会をつくる。

（「重度障害児者の入浴支援事業」と、「強度行動障害の方の生活支援・家族支援」の2テーマで、本日はしきれなかったところからそれぞれ深めていく）